

1.3 地域特産材を複合させた公共用製品の開発研究

宮崎 徹*、玉造公男***、坂下仁志*

1. 目的

豊富に産出される地域特産材の有効利用やそれらを複合した製品開発は、当所設立以来の研究テーマであり、地域にとっての課題でもある。

これらに取り組むため、平成2年度の「地域特産材を活用したインテリア用品の開発研究」（3ヶ年計画・最終年度）と平行・継続するものとして、本年度より新たに標記研究テーマを設定した。

これまで生活を支える製品群は、個別にその存在を競うかたちで開発されてきた例が多い。しかし、今日ではデザインの概念が拡大深化し、従来の製品開発の枠を越えた取り組みの必要性が、多方面で言われるようになってきた。

このような一般的趨勢下においては、環境や景観と個々の製品との全体的調和を図るマクロ的視点、あるいは日常的消費経済から少し離れ

て、福祉、教育、文化等の分野から製品に対してデザインアプローチを行うことが必要である。

本研究は、「公共」の意味の広範さを調査・整理するとともに、その結果を踏まえて特産材の活用による製品開発を行うことを目的とする。

なお、本年度は3ヶ年計画の初年度にあたり、調査を主体とした研究を実施した。

2. 方法

- 2.1 文献等による情報収集
- 2.2 フィールドリサーチ
- 2.3 基本コンセプトの設定および検討

3. 結果

資料（図1～3）の収集とともに、2回に分けて下記の9ヶ所について公共施設・空間を中心にフィールド・リサーチを行った。

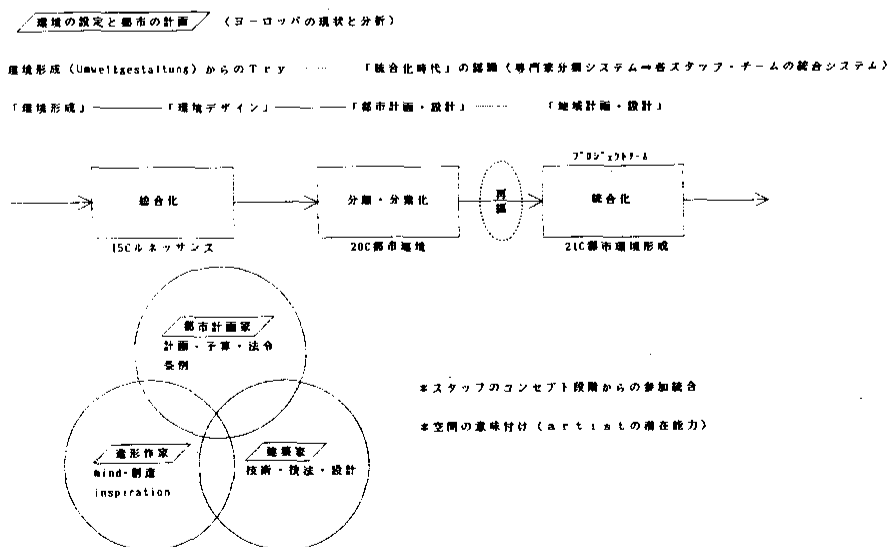


図-1 環境の設定と都市の計画 (ヨーロッパの現状と分析)

*デザイン研究室 ***塗装技術研究室

地方の計画とランドデザイン

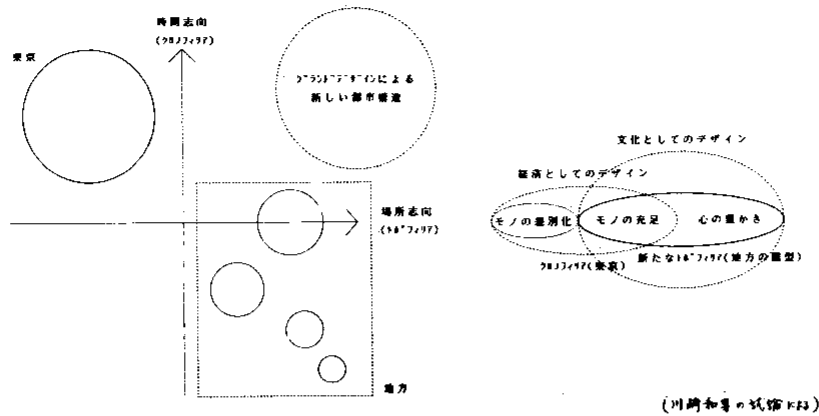


図-2 地方の計画とランドデザイン (川崎和男の試論より)

環境と道具の関係

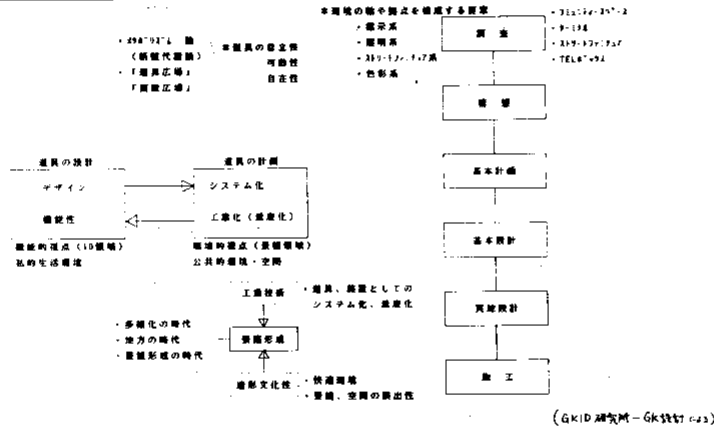


図-3 環境と道具の関係(GK・ID研究所より)

- ・「福岡県庁」(黒川紀章設計)
- ・「福岡市役所」(菊竹清訓設計)
- ・「東京新都庁」(丹下健三設計)
- ・「東急文化村」(石本建築事務所設計)
- ・「葛西臨海水族館」(谷口吉生設計)
- ・「夢の島熱帯植物館」(大字根・江平設計)
- ・「NSビル」(日建設計)
- ・「住友ビル」
- ・「JR京葉線、新木場駅」

調査対象とした高層ビルにおいては、外観から誘発される気持ちよさに比較して、オープンスペースが単なる通路として存在し、不特定多

数のヒトに対するストリートファニチャ的な公共用品類の設置が少ないため、空間としてうまく機能していなかった。

基本コンセプトについては、図4、図5に提案、検討課題として提示する。

4. 考 察

本年度の調査研究においては、公共用品の目的や意味について、空間的アプローチ(環境領域)と機能的アプローチ(目的領域)の両面から、コンセプト設定および調査を実施した。

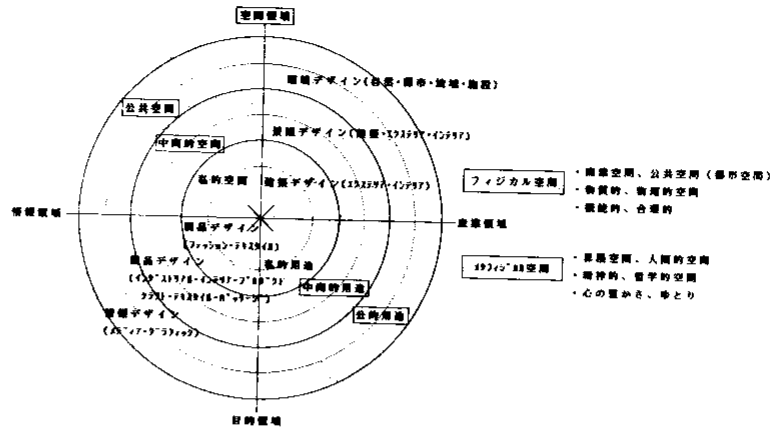


図-4 環境空間へのデザインからのアプローチ

目的領域へデザインからのアプローチ

- 公的用途
 - ・公共建築(行政、教育、文化、福祉、医療)
 - ・庁舎、学校、美術館、水族館、体育館、
 - ・養護施設、病院
- 公共空間
 - ・公共施設(道路、河川、広場、公園)
 - ・公共トイレ、電話ボックス
 - ・交通施設(ターミナル)
 - ・駅、バス停、サービスエリア
 - ・宿泊休憩施設(レクリエーション)
 - ・レストハウス
- 製品
 - ・環境製品標示(サイン)、ストリートファニチュア、
 - ・照明、舗石、植栽、ファサード、色彩
 - ・ストリートファニチュア
 - ・ベンチ、クズカゴ、灰皿、水飲み、シェルター、
 - ・電話ボックス、案内板、ポラード、ハンブ
 - ・施設製品(木製品)
 - ・ジャイアントテーブル、ダイニングテーブル、
 - ・カウンター、ベンチ、ソファ、机、椅子、
 - ・遊具、フィットネス

図-5 目的領域へのデザインからのアプローチ



写真-1

実地調査は、福岡市内と東京都内で、合計9ヶ所について行ったが、調査の方法、場所、



写真-2

時間等の制約から、十分な調査結果は得られなかった。また、一部の公共施設においては、空間とストリートファニチュア等の公共用品がうまく配置され、融和している例もあったが、多くはスペースの確保が十分でないため、むしろ設置されている公共用品が無意味になっている事例が多かった。

集中過密化を辿る都市では、これまで全てが効率最優先の思想で推進されてきたために、余裕のスペースを確保し、ヒトに優しい環境を提供することは困難な状況のようである。しかし、ヒトに優しいデザインが今こそ求められているとの認識に立って、本開発研究を進めていくことが重要と考える。